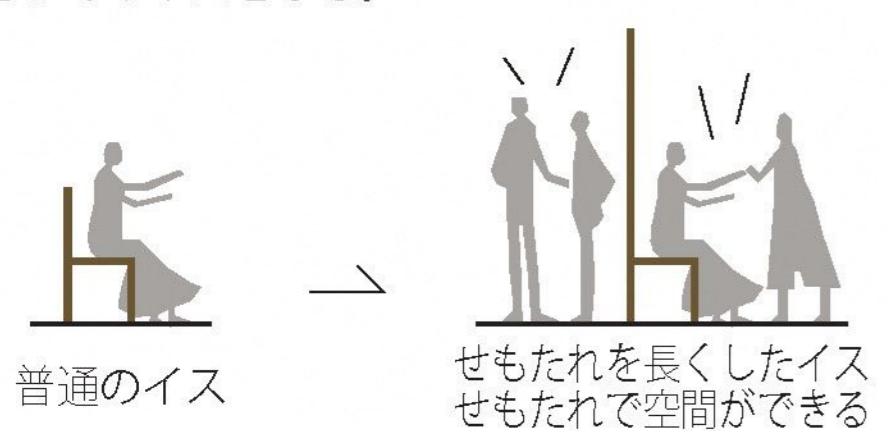


「せもたれのながいながいいす」

この木製椅子は、いすのせもたれがとても長いことが特徴である。せもたれが長いことで、オフィスにどのような効果が生まれるのだろうか。利用者に木の良さが伝わるイスの可能性とはどのようなものなのだろうか。オフィスを仕事の場所からコミュニケーションを生み出す場所と捉えなおしたとき、コミュニケーションを促す装置としてのイスの可能性を見出したいと考えた。イスからはじまるコミュニケーションである。せもたれが長いことで、単体としてはイスだが、複数個使うことにより、せもたれの後ろに空間ができる。そう、せもたれが間仕切りのような役割を果たすことになるのである。すると、イスの配置次第で様々なコミュニケーションが誘発されることになる。せもたれは、後ろの空間と前の座る空間を緩やかにつなげる。このイスの材料は京都府産の杉である。杉は比較的軽量でやわらかく加工しやすい。このことをデザインに落とし込む。このイスは、使用者が自らDIYする計画とする。DIYという作業には、杉はもってこいの材料である。加工しやすく、軽量なので移動しやすい。また、杉のやわらかさは、傷はつきやすいが、その傷が経年変化とともに味となり、イスの歴史となる。杉の持つ独特のにおいにも癒される。そんな木の温かさやにおい等を感じながら、木やイスに愛着を持ち、そこから、快適なオフィス環境を生み出すことができるのではないかと考えた。

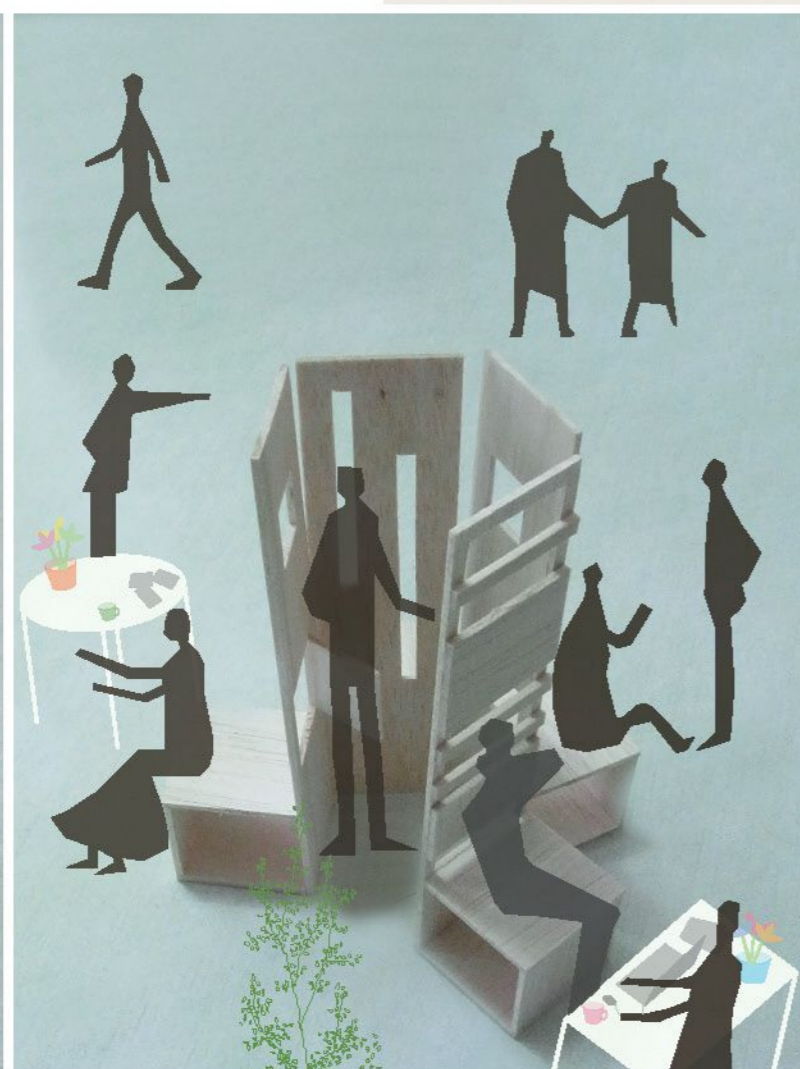
■Diagram ーいすのつくりかたー

せもたれを長く伸ばす。すると、せもたれによって空間が緩やかに隔てられ、コミュニケーションを促す装置としてのイスとなる。

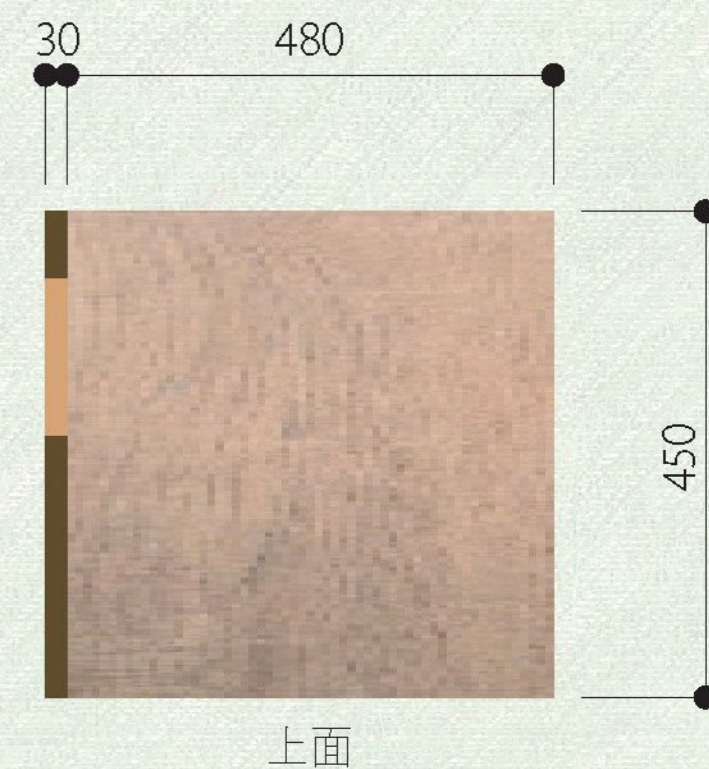


■DIYのススメリスづくりを通して木を感じるー

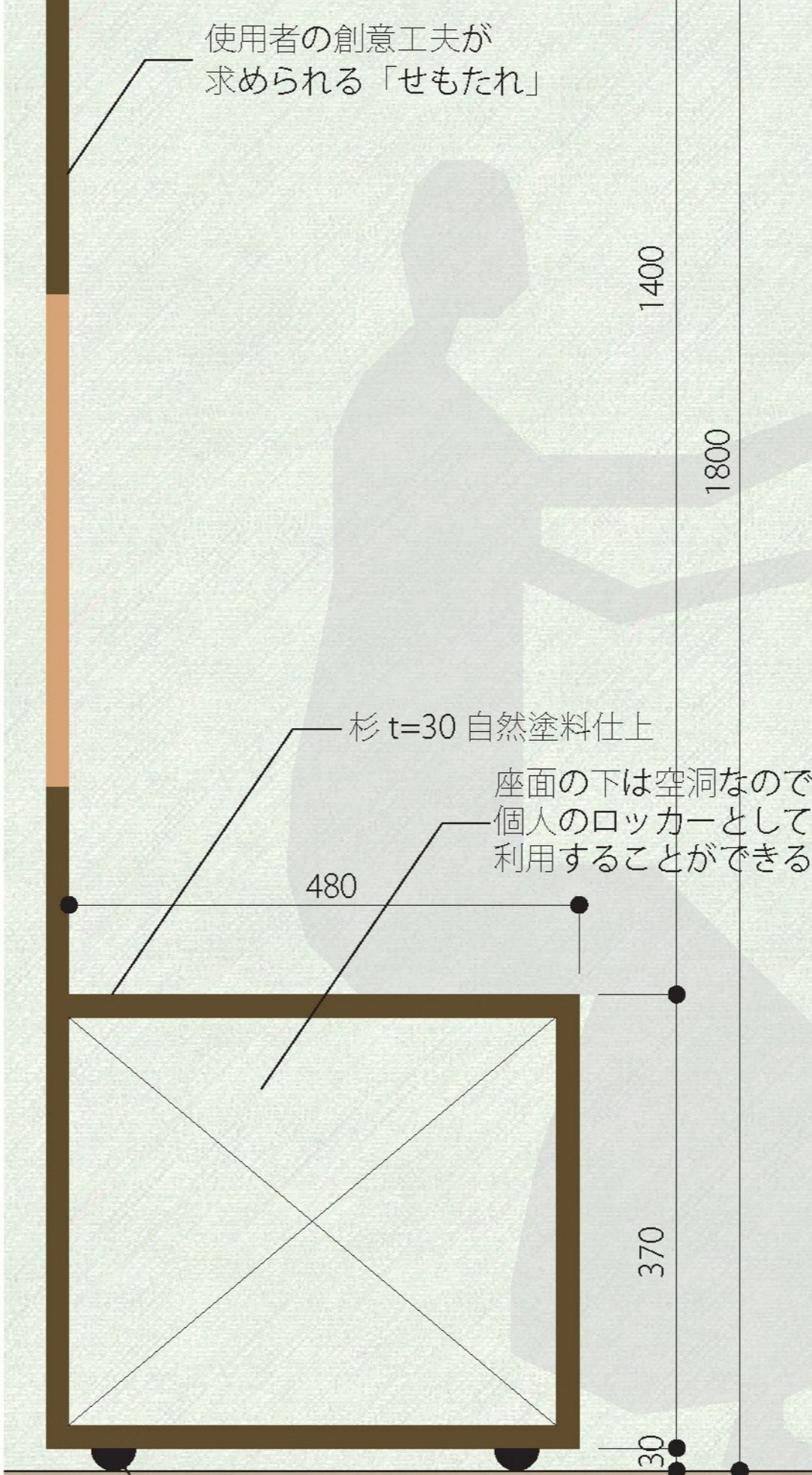
このイスは、DIYでできあがる。DIYの基本項目として、簡単にできること、楽しくできることが挙げられる。なので、極力シンプルな構造、部材、少ない部品で構成する必要がある。イスのせもたれは、使用者が自由にデザインすることができる。木の温かさや木のおい等五感を感じながら使用者が自分でつくすることで、木に愛着を感じることができるのではないだろうか。



使い方イメージ図

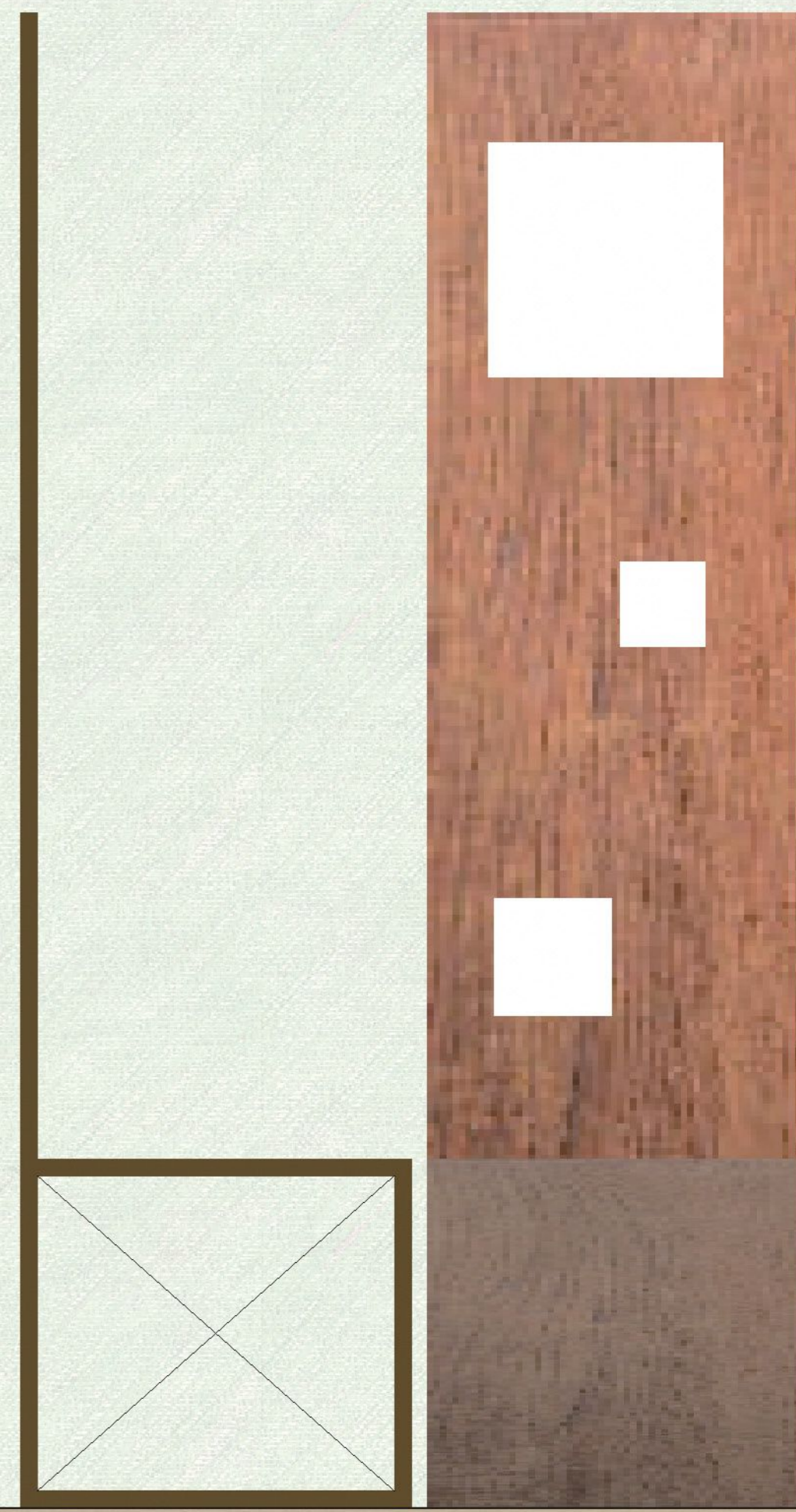


上面



キャスター
ストッパー付き

断面図 S=1:5



側面

正面

三面図 S=1:7